

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	藤林 比登美	所 属	U18 連盟／東部
大 会 名	令和7年度 関東学校女子バスケットボール大会		
期 間	2023年 6月6日 ～ 8日（参加日：6月7、8日）		
会 場	船橋アリーナ		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
6月 5日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
6月 6日	1・2 回戦	船橋アリーナ	
6月 7日	準決勝・決勝	船橋アリーナ	
審判会議、研修会 講義内容			
●指名審判員レクチャー 神奈川県バスケットボール協会 S 級審判員 村上恵美氏 東京都バスケットボール協会 S 級審判員 石鍋光智代氏 東京都バスケットボール協会 S 級審判員 千葉美幸氏 指名審判員御三方の審判を始めたきっかけや、審判歴、各ステージにおける活動の悩みや葛藤などについて会話形式でお話をいただいた。 ・一人の人としてあるべき姿。「人となり」を重んじる。 ・コートでは自分を信じ、自分を出し続けること。 ・人との繋がりを大事にすること。仲間を大切にすること。 ・失敗を恐れずにチャレンジすること。 ・巡ってきたチャンスを掴み取ること。			
担当試合①			
期 日	6月6日（土） 2 回戦		
対戦カード	鵜沼高等学校（神奈川） vs 千葉経済大学附属高等学校（千葉）		
ク ル ー	CC：石鍋 光智代氏（指名） U1：猪股 祐介氏（千葉） U2：藤林 比登美（埼玉）		
ミーティング内容		審判主任：山崎 敬次郎氏（千葉）	
▶ゲーム前の PGC ・1 回戦の試合をクルーでスカウティングし、勝ち上がりのチームの情報を共有。（Key player の確認や HC の特徴について） ・これまで積み上げてきたものをコートに出し切り、タフなゲームにする。 ▶ゲーム後のミーティング 全体としてプライマリーのレフリーが判定していたが、クルーとしてダブルホイッスルで鳴るケースについては必要か否かを吟味していけるとよい。一試合通して C からの強い判定が良かったとご講評をいただいた。 タフなゲーム展開をつくることも大事だが、ボディのコンタクトの中でも横から入ってくるコンタクトについてはシンプルにコールできるとよかった。1Q の初めに基準を示せる場面が2、3 つ存在した。また、Key player に対して執拗に接触するケースについても基準を示していきたい。HC も気にしているところだったので、コミュニケーションはあったもののメッセージを伝えられず終わってしまった。			

全体の感想

この度は、関東高等学校女子バスケットボール大会へ派遣していただきありがとうございました。今大会では、各都県からの女性審判員の派遣が多く、これほどまでに多くの女性審判員が参加する大会はこの女子関東だけであるとのことでした。大会の最後には、千葉県専務理事の大野様のご挨拶をいただき、過去の女性審判員のご苦労などもお話していただきました。最前線で女性の活躍を牽引してきた方々にリスペクトを持ち、今度は私たちの世代が強く引っ張っていかなければならないと感じました。そのような存在になれるよう、今後の審判活動にも精力的に取り組んでまいります。

最後になりますが、開催県である千葉県バスケットボール協会の皆様、今大会を運営していただいた関係者の皆様、ご一緒させていただいた審判員の皆様、日頃よりご指導いただいております埼玉県審判員の皆様へ感謝申し上げます。このような貴重な機会を大切に、県内においても還元していけるよう今後とも研鑽を積んでまいります。

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	大野 紗佳	所 属	U12 カテゴリー
大 会 名	令和 7 年度関東高等学校女子バスケットボール大会 兼 第 79 回関東高校女子バスケットボール選手権大会		
期 間	2 0 2 5 年 6 月 7 日 ～ 8 日		
会 場	船橋市総合体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
6 月 5 日	審判会議	ZOOM 会議 参加者自宅他	
6 月 7 日	大会 1 日目	船橋市総合体育館	
6 月 8 日	大会 2 日目	船橋市総合体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
【指名審判員】 村上 恵美 様 石鍋 光智代 様 千葉 美幸 様 【テーマ】 指名審判員の皆様が審判員として歩んできた軌跡。その中で向き合ってきた葛藤や学びについて 【自己紹介／審判活動での学びや意識していること】 ➤ 石鍋 光智代 様 所属：東京都 高体連 職業：小学校教諭 審判を始めたきっかけ：母校のチームを少しでも勝利へ導くため。大学生の頃から活動始める 審判活動での学び：学級運営と審判は似ている ➤ 千葉 美幸 様 所属：東京都 社会人連盟 職業：小学校体育専科 審判活動において大切にしていること：失敗を恐れずにチャレンジをする。コート上では常に自分を信じる。反省は後から行う。 難しい言葉もたくさんあるが、それよりも現場でゲームを観ることを大切にしている。 コミュニケーションについて大切にしていること：先輩、上級の方からのアドバイスは自分から声をかけて貰いにいく。教えることを嫌がる人はいないと思っている。自分から積極的に声をかけることで、認識してもらえる。 ➤ 村上 恵美 様 所属：神奈川県 社会人連盟 職業：小学校養護教諭（前職：精神科看護師） 審判を始めたきっかけ：社会人になりプレーヤー兼帯同審判員として活動。どうせ審判をやるなら W リーグを担当したいという 一心で S 級まで上り詰める。 審判活動での学び：仲間の大切さ。A 級同期と一緒に切磋琢磨してきた方、常に一步前を歩いてくれる方。			

2 人の支えがとても大きな力になっている。

【最後に】

「諦めない」「仲間」がいること

「繋がり」を大切に・・・

想い溢れる関東大会にしましょう

担当試合①

期 日	6 月 7 日（土） 1 回戦
対戦カード	実践学園（東京） vs 県立相模弥栄学校（神奈川）
ク ル ー	CC：功刀 麗菜 氏（山梨） U1：中嶋 瑠菜 氏（千葉） U2：大野 紗佳（埼玉）
ミーティング内容	審判主任：梶 崇司 氏（本部）

▶ゲーム前の PGC

- ・ 新ルールの確認
- ・ メカニクスの確認
- ・ チーム情報の共有

▶ゲーム後のミーティング

- ・ トスアップ直後の相模弥栄高校のプレス Def から、ファウルの多いワフなゲームになると感じた。1Q では相模弥栄高校に多くファウルを積むこととなりチームファウルも偏ったが、距離感が近いことでのヒットやプッシュなどクルーで共通認識を持って判定ができたと思う。ただ、自分が判定したファーストコールなど、積んだファウルの中での精査は必要だった
- ・ チームファウルの数に偏りがあるので、実践学園が起こしたファウルやバイオレーションは逃せないという意識のもと 1Q と 2Q で自分がケイデンス気味にプライマリを超えて判定したケースは、プライマリの持っているアングルからは判定ができないと思い決断した
- ・ 3Q に入り選手が転倒することが増えた時間帯が 1 試合の中で一番辛い時間帯だった。前半は相模弥栄高校の接触が気になることが多かったが、後半に入り実践学園の熱量も上がってきたタイミングでリバウンドやルーズボールの判定をこぼしてしまうことがあった
- ・ 最後までどちらが勝つか分からないような緊張感のあるゲームだったが、EOG はプライマリが強く示してくださったことで締まったゲームになったと思う
- ・ メカニクスについては終始課題があったと感じる。特にローテーションのタイミングについては試合中の修正ができなかった〈主任から〉
- ・ 1Q でチームファウルが早々に 4-0 となったが、結果として 2Q では相模弥栄高校の Def の仕方が変わりファウルの数が減ったのでメッセージとしては伝わった。ただ、ファウルが多いゲームの中で何を積んでいくか、もっと他に吹いたほうがよい現象が無かったのかは振り返るべき
- ・ 自分がケイデンスで吹いた 2 本について、プライマリが判定できればベストだったが吹き方と笛のタイミングはとても良かった
- ・ タイムアウト中、誰か 1 人が喋るのではなく常に 3 人で話して共有していた姿は良かった
自分にしか持っていない情報というのは必ずあるので、年齢やライセンスに関わらず今後も続けてほしい
- ・ EOG でカウント・ノーカウントの判定を一度示した後、再度選手が整列した後にクルーで確認を行い CC が示したケースに関しては、ゲームクロックが鳴った際にプライマリが強く示していたので、整列後はそのまま終わらせた方がよかった
➡万が一そこで意見が食い違った時に大きく荒れるきっかけとなるため

全体の感想

女性審判員が多く集まる唯一の大会である関東高校女子大会において、普段と一緒にすることができない上級審判員の方とコミュニケーションをとれたこと、目の前で試合を観戦することができたことはとても貴重な経験となりました。

特に、「クルーを信じてプライマリの判定を尊重する」というのを体現されていたゲームがあり、その結果、タフゲームとなりとても見応えのある試合でした。また、今の私の課題にマッチしていてとても勉強になりました。

一緒に審査のクルーを組んだ功刀様、中嶋様をはじめ、日頃から埼玉県で切磋琢磨しながら活動をさせていただいている皆様、関東の女性審判員として様々な場所で活動をされている皆様など、多くの「仲間」がいることを感じる事ができた有意義な2日間でした。今大会での「繋がり」を大切に、今後の審判活動の糧にしていきたいと思います。

最後になりましたが、このたび派遣いただきました埼玉県審判員長眞榮喜様をはじめとする指導員の皆様、大会の開催にあたりご準備、運営をしてくださった千葉県バスケットボール協会および千葉県高体連審判部の皆様、指名審判員の皆様、割り当てクルーやTO役員、その他大会に関係するすべての皆様にあらためて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

引き続き、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	中田 愛	所 属	U18 北部支部
大 会 名	令和 7 年度 関東高等学校女子バスケットボール大会 兼 第 79 回関東高等学校女子バスケットボール選手権大会		
期 間	2 0 2 5 年 6 月 7 日（土） ～ 8 日（日）（参加日：6 月 7 日）		
会 場	船橋市総合体育館（船橋アリーナ）		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
6 月 5 日（木）	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
6 月 7 日（土）	1・2 回戦	船橋アリーナ	
審判会議、研修会 講義内容			
指名審判員の村上様、石鍋様、千葉様よりお話をいただきました。 ●レフリーである前に 1 人の人間であること 指名審判員である方々が自分たちのありのままを知ってもらいたいということで、経歴や職業など今の自分が作り上げられるまでのお話をしてくださった。 レフリーである前に一人の人間として存在しているため、仕事を一人前にやっていないと認めてもらえないこと 審査会に参加するメンバーは、自分の今を出し切れるように、やり切ったって思えるようにコート内では自分を信じ続けること 上手になりたいという気持ちは、いつでも変わらず持ち続けていて、たくさんの人に聞いて実践して改善していくことが大切であること 最後に同じモチベーションで頑張っている仲間を大切に、つながりが今の自分を支えてくれていることを忘れないように という内容を指名審判員である方々の会話形式で講義してくださった。			
担当試合①			
期 日	6 月 7 日（土） 1 回戦		
対戦カード	習志野高校（千葉） vs 国本女子高校（東京）		
ク ル ー	CC：佐々木琴美氏（神奈川） U1：中田愛（埼玉） U2：小山愛菜氏（茨城）		
ミーティング内容		審判主任：小澤朋克氏（群馬）	
▶ゲーム前の PGC → 対戦チームの特徴について 3 PO メカニクスの確認 プレーコーリングについて ▶ゲーム後のミーティング 3 人で協力して進めて無事終わらせることができたことはよかった。その中で、トラベリングについて基準を明確につくると試合終盤のプレーがもっと変わった可能性があること、オフボールプレイヤーの FOM を妨げる DF の整理について、B 級の重点項目の中でコミュニケーションが挙げられているため、チャンスがあった時にベンチや選手とコミュニケーションの取り方を工夫できるとよかったこと、センターのポジショニングをプレーに合わせて行えるとよかったと講評をいただいた。 クルーでは、上記に加えメカニクスの部分で L が振られてしまったケースとバックペダルを踏めばよかったことを反省した。			
全体の感想			
今大会に参加させていただき、自分のプライマリーの判定を積み上げていくことがクルーワークにつながっていくことを改めて実感することができました。情報共有する時間があれば、すぐに試合の流れや選手の状況、チームの状況を簡潔に確認しプライマリーコールを積み重ねていくことができたため、接戦の中でタフにプレーをさせることができたかなと感じます。 自分自身としては、自分のプライマリーでの判定をより納得してもらえるようにするためのポジションアジャストや選手やベンチとのコミュニケーション、メカニクスの理解について課題が明確になりました。今回の課題を今後の審判活動で改善していきます。 最後になりましたが、今回の派遣にあたり大会を円滑に運営していただきました千葉県バスケットボール協会の皆様、また今大会へ派遣してくださいました眞榮喜審判長をはじめとする埼玉県バスケットボール協会の皆様と、日頃よりご指導いただいております皆様へ心より感謝申し上げます。引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。			

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	山宮 紅葉	所 属	社会人連盟
大 会 名	令和 7 年度 関東高等学校女子バスケットボール大会 兼第 79 回関東高等学校女子バスケットボール選手権大会		
期 間	2 0 2 4 年 6 月 7 日 ～ 8 日（参加日：6 月 7 日）		
会 場	船橋市総合体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
令和 7 年 6 月 5 日（木）	審判会議、研修会	オンライン zoom にて。	
令和 7 年 6 月 7 日（土）	大会初日（A 級一次審査）	船橋市総合体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
令和 7 年 6 月 5 日 19：30～ 審判会議、開校式 ○大会副委員長 大野健男氏より挨拶 平原勇次氏（東京都）、中嶽希美子氏（千葉県）、東祐二氏（東京都）、梶崇司氏（栃木県）より挨拶 ○大会連絡事項の確認、（割当、輸送、宿泊等） ○指名審判員の方よりレクチャー 村上恵美氏（神奈川県）、石鍋光智代氏（東京都）、千葉美幸氏（東京都）より ●指名審判員の自己紹介 それぞれの職業と、審判歴についてディスカッション 審判を始めた<u>きっかけ</u>や、それぞれの<u>仕事</u>やについて。 →「ダブルリーグを吹きたい」と口にしたことや、仕事において感じたことで現在の感性がある。 →きっかけは、人それぞれ。目指す場所は同じだが、現在に至るまでのバスケットにおいての関わり方や経験や年数も異なる。 →教職員やアルバイト等、それぞれで経験したことが現在の審判に生かされている。 →現在に至るまでに、悔しい経験や仲間と出会えた幸福感、様々なことがあった。 ●審判員として。 ・コートでは自分を信じ続ける。常にチャレンジする気持ちが大切。 ・人との出会いで人は変わる。 ・チャンスは皆平等にくる。出し切る機会をどう向き合えるかを考える。 ・いろんな方から話を頂く中で。自分を信じることを忘れない。 →コート内では自分を信じ続ける。コート外では自分を信じ続ける。 ・コートで後悔しないように。 <u>「諦めない」「仲間」がいること、「繋がり」を大切に。</u> →今大会で出会えた仲間との繋がりを大切にしたい。 ○終わりに。 チャンスを掴めるかは自分次第である。全力で試合に臨む。 各県の様々な方との繋がりを大切に、交流を是非して欲しい。 「審査」とあるが、審判の仕事はコートにある。良いゲームを作れるよう、責任を持ちコートに立つ。			

実技	
期 日	6月7日（土）Bブロック 女子 1回戦
対戦カード	藤村女子高等学校（東京都）vs 水城高等学校（茨城県）
ク ル ー	CC：田中 由紀子氏（神奈川） U1：山宮 紅葉（埼玉） U2：白銀 菜々氏（千葉）
ミーティング内容	
審判主任：茂泉 圭治氏（神奈川）	
▶ゲーム前のPGC ●チーム情報の確認 （濃：水城高校 淡：藤村女子高校） 過去の対戦成績、スカウティングで得た知見、ボックススコア、身長差やキーマンの確認、 ●ベーシックの徹底、最終目標を決めていく。 ●基本的なメカニクスの確認→ベーシックを大切にしていける。 ●気づいたことがあれば情報共有していく。コミュニケーションを多く取る。 ●チーム、観客にとって良いゲームを作る。 ▶ゲーム後のミーティング 講評：茂泉 圭治氏（神奈川） ●全体的なゲームの反省 クルー間や、選手ともよくコミュニケーションを取れていた。 笛を入れるべきタイミングで、それぞれが笛を入れることができていた。 その中で吹くべきプライマリーの判定はどうだったか。 ●それぞれのクルーの反省 山宮→ゲーム中の判定の幅を広げられると良い。笛が多いわけではないが、「反射」での判定になってしまいそうな時がある。 ペネトレイトの仕方一つをケースとしても、急にアングルチェンジが見られた。 気になる点はコミュニケーションをとったり、クルーで共有できていたのよかった。	
全体の感想	
はじめに、今大会の開催にご尽力いただきました千葉県協会の皆様、派遣していただきました埼玉県協会の皆様に感謝申し上げます。 この度ゲームを担当させて頂く中で、これまでの試合に携わったチームや審判員の思いを汲み、責任をもつという覚悟でコートに立ちました。審査という場ではなく、「今大会を通して繋がることのできた仲間と良いゲームを作る」という思いで判定を重ねていきました。指名審判員の方々の話の中で「自分を信じる」「仲間を大切に」という話が繰り返し出てきました。その話について考えた時、覚悟と準備ができていないと自分自身を信じることができないと感じました。私自身、自分自身ができる最大限の準備と気持ちの整理をして、ゲームに臨みました。大会が始まり、各県の方との交流の中で自分と同じ場所を目指す仲間がたくさんいることを、実感しました。 ゲームでは、ベーシックなメカの徹底、チーム全体の特徴やゲームの流れを、クルーで共有してゲーム運びを行なって行きました。クルーとよくコミュニケーションが取れたことで、最後まで安心して判定ができました。自身の課題は多くあり、講評でもご指導を頂き、次のゲームより改善して行きたいと思いました。観客や TO の高校生を見ると、この舞台に欠けた思いや緊張感が伝わってきました。勝敗だけでなく、それぞれの熱い思いを感じたゲームとなりました。 最後になりましたが、今回の派遣にあたり、大変お世話になった千葉県バスケットボール協会に皆様、又今大会へ派遣していただきました埼玉県協会の皆様と、日頃活動でご指導して下さる皆様に、心より感謝申し上げます。この経験を連盟や、県内での活動に還元できるよう、研鑽を重ねて行きたいと思います。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。	